



●●● 共同印刷第三號館の建築 ●●●

● 正
● 面
● 全
● 景
●

昨秋竣工した共同印刷株式會社の第三號館は近代工場建築として、設計及施工の上
に多くの新しい企圖をもつた建築である。工場建築である以上用途の上からはあく
まで實用的な、即ち土木的構造が要求され、しかも労働者の能率を考慮する時は或る
程度の建築的な裝飾的効果もまた等閑視するわけに行かぬ。工場建築の成功不成功は
この二つの要素をうまくマッチさせるか否かにかゝつてあると云つて好いだらう。共
同印刷の三號館はこの意味から殆んど劃期的な成功を獲得したものだ。外裝の單純化、
内部の明朗さ、そしてこよなき考慮がめぐるされてゐる屋上庭園の設計。この建築に
就ては、もつと多くの言葉を費すべきであるが、こゝには工事の大體の説明を附する
に止めて置く。

構造は鐵骨に鐵筋混凝土を被覆したもの、地上六階塔屋付で、軒高尺塔屋バラベツ
ト上迄まで95.5尺、延約3,358坪で、外裝リシン仕上、一部タイル貼、内部は概して漆
喰塗仕上げだが、一部にセメファルトテックス塗裝が施された。これは建築材料とし
て新しいもので、秋葉原の驛にも使はれてゐる。煖房、通風、衛生、等の設備にも
最善の注意が拂はれ、印刷工場としての特殊の設備もなかなか多い。

設計及監督は加藤岩造氏、清水組の請負で施工した。(星)



(上)は共同印刷株式會社第三號館全景。

(下)ドイツアルノー會社製六色オフセット輪轉印刷機室。

